

令和七年度 役員紹介

□地区青少年育成連絡協議会

会長 山口 和夫
 副会長 齋藤 芳昭 鈴木 昌克
 監事 鈴木 正人 清澤 穰

□市町民会議会長（上段）及び推進員会長（下段）

・米沢市	山口 和夫	土屋 博
・南陽市	渡部 時裕	後藤 優美
・高島町	清澤 穰	清澤 穰
・川西市	遠藤 勝則	金子 達
・長井市	平 みわ	鈴木 昌克
・小国町	齋藤 芳昭	高橋 義彦
・白鷹町	齋藤 芳昭	布施 剛志
・飯豊町	鈴木 正人	伊藤 昭

□事務局

置賜総合支庁保健福祉環境部
 こども家庭支援課
 課長 長 布宮 千夏
 課長補佐 遠藤 直記
 主事 布川 愛子
 青少年専門員 峰 浩明・板垣 健



「学びなおし」

白鷹町青少年育成町民会議
 会長 齋藤 芳昭



小中学校での教師生活を経て、地元で幼児保育や児童発達支援に関わる仕事に

携わり早四年目を迎えました。天真爛漫な子ども達と共に生活する中で生まれる笑いや喜びを子ども達の成長に結びつけ、職員一人一人の働くエネルギーに換えて保育活動を展開しています。勿論、平穏な日々の中にあっても小さなトラブルは

提言

「大人はどう変わる?」

「児童憲章」「子どもの権利条約」

「子ども基本法」に学ぶ

米沢市コミュニティ活動
 推進員連絡協議会

会長 土屋 博



「大人が変われば、...と言われますが、大人がどのように変わればいいのか

な」、「青少年の健全育成というけれど、どのように育成するのか」と考えていました。私は、活動推進員としてや

日常茶飯です。

ある日、元気いっぱいA君が転園してきました。陽気でみんなに優しく、おもしろいことをたくさんやっていたが、ちょっとしたことがきっかけとなって激怒したり、友達を叩いてケガをさせてしまったという問題行動が目立っていました。

この課題を解決するために、早速どのような支援が必要かを全職員で話し合いました。私はこれまでの経験をもとに、ケガをさせてしまった自らの「失敗を振り返らせ内省の場面をつくる」ことが立ち直りには必須と考えました。一方で経験豊かな保育士は、失敗を振り返ることより、つい失敗を繰り返して

てしまう本児の「心の荒れや葛藤に寄り添い、温かく包み込む支援」が優先して必要であるとの考えでした。議論を重ねた結果、後者の支援を全職員で徹底して積みあげた結果、確実にA君の問題行動は改善に向かったのです。数か月が過ぎ、新たに「愛着障害」の診断を受けた本児ですが、日頃の保育で本児を観察し、愛着障害の様相があることを疑い、的確な支援策を導き出した保育士集団の観察眼と指導力に感謝しています。同時に、これまでの経験値におごることなく、幼児、障がい児教育の「学びなおし」をしていきたいと思っています。

保育園、学童保育所での子どもたちとの関わりの中で、子どもへのまなざし、「子ども観」を問い直し、変わろうと思えました。変わるために、「児童憲章」「子どもの権利条約」「子ども基本法」を学びました。

「児童憲章」は、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために制定されました。「母子健康手帳」に掲載「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境の中で育てられる。」とあります。大人も子どもも一緒で、同じ人格として尊重することが明記されています。

1989年に国連で「子どもの権利条約」ができ、日本は1994年に批

准しました。この条約の大切な中身は、子どもは市民であり、子どもは権利行使の主体であるということです。5つの基本的な権利として「社会に参加する権利」「子どもの生存と生活の権利」「子どもの学習や教育への権利」「遊びと文化の権利」「立ち直っていく更生の権利」があります。この条約を学ぶことで、子どもの人格を尊重することが大切だと思えました。そして、子どもへのまなざしがより明確なものに変わってきました。

子どもと関わる大人において、最も大切なことは子どもたちを信頼すること、子どもたちから信頼されることだと思います。

山形県青少年育成県民会議

令和七年度 事業計画

◆県民運動総合推進事業◆

(1) いじめ・非行をなくそう
やまがた県民運動の推進

① 市町村民会議等に対する支援

② 標語の募集、広報、周知、表彰

③ 小中学生、高校生、特別支援学校生を
対象とする運動の展開

④ 「いじめ・非行防止セミナー」の開催

⑤ インターネット利用研修会の開催

⑥ 県内の民間企業・団体等との連携

(2) 「大人が変われば子どもも変わる」県民
運動の推進に対する助成

① 地区青少年育成連絡協議会の地域実践
活動

② 市町村民会議等による県民運動推進基
盤の強化活動

③ 地区青連協が市町村民会議と共同して
行う運動

(2) 青少年健全育成県民大会の開催
(十月二十六日・庄銀タクト鶴岡)

(3) 山形県少年の主張大会の開催
(九月中・下旬・会場は未定)

(4) 青少年のための環境づくり懇談会

◆青少年育成広報啓発事業◆

(1) 防犯広報ポスター・標語の募集

(2) 機関紙等の発行

(3) 「家庭の日」の普及啓発

(4) 県内の民間企業・団体等との連携

(5) ホームページを活用した情報発信

(6) 県民運動の啓発及び情報提供

合同研修会 (講演会)

演題 「お笑いとお農 業」

「未来を切り開く
ための生き方」

ソラシド 本坊元児氏

(山形県住みます芸人)

六月二十八日、南陽市交流プラザ「蔵
楽」を会場に、置賜地区青少年育成連
絡協議会、置賜社会教育振興会、南陽
市青少年育成市民会議による合同研修
会が開催されました。

かつては、東京で漫才やバラエティ
番組で活躍していたと思っていた本坊氏
でしたが、山形に来て畑仕事や様々な
人と交流する中で、場所や形に
こだわらず、地域に根差した活動を行
うことで新たな価値が生まれることを
実感し、東京ではなく、敢えてこの山
形県から全国区を目指したいという新
たな未来を展望されています。

場所が変
わっても本人
が変わらんと
やっぱり一緒
なんです。
事象の受け
止め方次第で
生き方が大き
く変わること
を学びました。



小国町 二の宮神社例大祭での見回り活動



川西町 川西環境フェアでの啓発活動



飯豊町 白川ダム湖畔マラソン大会での交通誘導



白鷹町 中学校でのあいさつ運動